

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本方針の「地域社会との交流を図り、社会参加を援助する」を心得、月1回の外出や地域との交流を図っている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時に理念を復唱している。又、ネームプレートにも入れている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関やリビングやユニットに理念を掲示している。又、パンフレットにも記載している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域行事に参加するほかにホーム行事には地域の方に呼びかけをし、来ていただいている。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、ユニットにて話し合いをし、自主点検の場として用いている。		
6 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員からの意見は、地域との繋がりとしてホームで実行できることはすぐに行動に移している。		
7 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議録を提出する際、広報誌を配布している。		
8 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修を通じて制度などいづらか知っている。合同ミーティングで研修報告し、研修ファイルにて、全職員閲覧できるようになっている。		
9 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待などはないが、何かあった場合は、すぐにユニットリーダーに報告してもらうようにする。	○	身体拘束委員でこれから勉強会実施予定である。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・重要事項説明書の説明を行い、又、ご家族からの疑問や意見など引き出せるよう働きかけている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情委員会で、苦情になり得る小さいことから話し合いをしている。又、玄関に意見箱を設置している。	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時毎にご家族へ報告している。又、事故や受診結果内容など随時電話にて報告している。月1回の広報誌でホーム内の様子をお知らせしている。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明時、苦情窓口がある旨伝えている。玄関には意見箱設置協力を得ている。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の合同ミーティング、ユニットミーティングの場を設けている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	生活活動時間帯に3人勤務している。委員会議やミーティング、行事等は職員を増員している。又、ユニットにて欠員があった場合には、他ユニットから応援がある。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	年1回は職員のユニット替えを行っているが、馴染みの関係を作れるよう大幅な配置替えはしていない。又、家族からの要望も配慮している。ユニット替えについては入居者にも説明している。		
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外・内部研修の参加をし、外部研修は合同ミーティングで報告している。研修ファイル作成し、回覧できるようになっている。		
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括内でのグループホームとの、行事参加交流がある。又、外部研修でも、いろいろな方と話し、情報を交換している。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	公休希望用紙を活用し、休みをリフレッシュとしている。又、不定期だが、交流会として親睦を深めている。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の力量に応じた仕事分担になるよう配慮している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込み時に、ゆっくり話できる時間を設けている。又、ホーム内の見学・説明も行っている。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居判定会議があり、その他にも、管理者とリーダーで話し合いの場を設けている。又、関連施設との連絡調整も行っている。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	アセスメントシートの活用にて生活リズム・生活歴の把握に努めている。入居間もない時期は不安がるので、できるだけ面会に来ていただけるよう家族へお願いしている。又、一緒にご家族へ電話する。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	できるだけ、入居者が行っていることに対しての補助役になるイメージで援助している。	○ おやつ時は、入居者と一緒に座わり、話題を提供したり、入居者同士が交流を持てるよう関わっていききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時、本人の状態を報告している。又、毎月の外出や、行事へご家族の参加が定着してきており、その際、ご家族からの要望など伺っている。	○	参加される家族が決まっているので、参加されないご家族へも参加を呼びかけていきたい。又、全職員が家族とコミュニケーションを図るよう心掛ける。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時、居室等を利用し、家族だけの空間を作るよう配慮している。面会時以外にも、本人の希望にて電話での会話をしている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時の車中では、場所の説明をするようにしている。又、個別外出にて、墓参りなど支援している。	○	その日の時間、状態を見て、個別外出を増やしていきたい。
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立しないよう、体調や本人の性格に合わせ、なるべくリビングにて過ごしてもらっている。上手く会話の出来ない入居者が仲に入り、その時が楽しいと感じてもらえるように働きかけている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	関連施設への入院・移動の場合には、通院時に面会している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	主に、ご家族から情報収集を行っている。又、行事で以前に喜んだりしたものを取り入れるようにしている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族や、居宅のケアマネジャー等から情報を得ている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その日の状態に合わせてなるべく出来ることは、やってもらうようにしている。モニタリングや評価時に、担当入居者の職員中心に話し合いをしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生活の中から好きな物事を見つけるよう努めている。又、ご家族からケアプラン作成時、希望・要望を聞いている。担当の職員が主体となり、ユニットカンファレンスを行っている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1度評価、3ヶ月に1度モニタリングを実施し、状態変化があった場合、優先順位を変更している。プラン変更時は、全職員へ伝わるよう、連絡ノートへ記載している。又、個人ケースの表紙に入れ、回覧できるようになっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当入居者を決めており、なるべく担当に就いた入居者の記録はプランを元を書くよう努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	月1回の行事の他に、体調や天候に合わせて、個別外出にてドライブや買い物に出掛けたりしている。	○	今年度より、インターネットが使えるようになったため、月行事等に反映させるようにしたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域に広報誌を配布したり、運営推進会議で情報交換したりしている。（無断外出時の協力体制など）		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスの利用はしていない。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には地域包括センターの方が出席され、入居者の状態は理解されてきている。実際には権利擁護を使用している対象者はいない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	慈恵会病院と青い森病院が協力病院である。協力病院以外の通院はご家族へお願いしている。		
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	青い森病院の精神科へ受診している。入居者で抗鬱剤や眠剤を服用している入居者には1～2週間に1度の受診時に状態報告を細やかに行っている。急変時の対応も整っている。		
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	青い森病院の外来看護師及び責任看護師へいつでも相談できる。(昼夜問わず)		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院側とご家族側との話し合いから、利用者の状態を把握し、管理者・リーダーとミーティングをしている。又、病院側と管理者の連絡調整も行っている。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	当ホームでは、終末期は行っていないことを入居時に説明している。又、重度化した場合に向け、できるだけ、早い段階から他施設への申し込みをお願いしている。重度化した場合、医師と家族が話し合いを行っている。		
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期の対応はしていない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	居宅のケアマネジャーより、ケア情報の提供、入居時にご家族からの情報収集を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の羞恥心等に配慮し、業務を行っている。入居者への声掛けには職員同士注意しあっている。(排泄など、職員の声のトーンなど)		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々の理解力に応じた説明をするようにしている。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活パターンを理解し、援助しているが、入居者一人ひとりへの関わりが少ないと思われる。(特定の入居者(認知症重度のかた)に偏っているように感じる。)		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみは毎日支援している。理容は、定期的に床屋を利用し、本人の望む店へ家族が連れて行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と話題が共有できるよう、又、見守りも兼ねて必ず一緒に食事している。準備もなるべく一緒に行っている。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつや買い物の時、入居者の好みや体調が反映されるようにしている。入居者の体調に合わせて、一緒に買い物に出掛ける。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	なるべく失敗が少ないように個々に合わせた排泄の仕方、時間でトイレ誘導をしている。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の意思を聞くようにしている。その方にあつた見守り、介助をするようにしている。(脱衣所での見守り、入浴中音楽を流すなど)		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夕食後から就寝時までくつろぐ時間を作り、気持ちが落ち着いてから眠れるようにしている。又、不眠の入居者には日中なるべく眠らないよう支援する。		
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	全入居者は困難だが、活躍できる場面を大切にしている。(茶碗拭き、おしぼりたたみ、掃除など)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	入居時にご家族へ説明し、自己管理の出来ない方に対しては、小銭程度の所持にしてもらえるようお願いする。		
58	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	月1回の外出の他に、個別外出している。(買い物、ねぶた見学、墓参りなど)		
59	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	墓参りやねぶた見学など、個別外出をしている。		
60	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	ご家族からの電話、本人からの希望で電話での会話をしている。		
61	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	面会時間内は自由に交流が図れるようにしている。又、面会者はキーパーソン面会者へ報告している。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	身体拘束の同意書を作成したが、現在対象者はいない。身体拘束委員を主体に勉強会を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	台所や洗濯場は、危険物保管しているので鍵をかけている。生活時間帯は、正面玄関の鍵は一切していない。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	リビングに居ない入居者に対しては、随時巡回をするよう心掛けている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の目につかない場所に保管している。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルの活用及び、事故、ヒヤリハット報告書で事故再発防止に向け、ユニットで話し合いしている。転倒の危険のある入居者は転倒防止として、夜間簡易ベッドを使用している。		事故委員会のミーティングを毎月開催し、合同ミーティングを利用し勉強会をおこなっている。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	夜間の緊急マニュアルがあり、日中もすぐに管理者やリーダーが対応している。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回、昼夜共に想定し訓練が行われている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	病気や症状に応じたリスクがあることを伝えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝の検温時、状態確認している。状態変化があった場合は、すぐにバイタル測定をし、日勤責任者へ報告し受診する。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋をファイルに閉じ、全職員が確認できるようにしている。又、変更時は連絡ノートを活用し、全職員に伝えている。		投薬箱に薬をセットした後、2人で確認している。又、責任を持って服薬介助するため、職員はチェック表に記入している。
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給、下剤調整し、排便援助を行っている。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々の入居者に合った口腔ケアをしている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立バランスは保たれている。食事摂取量は、個人ケースに記録している。不足時は、補助食品で補うようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染委員が先立ちとなり、マニュアル作成し、合同ミーティングを利用し、全職員へ伝えている。マニュアルは、ファイル作成し、全職員が閲覧できるようにしてある。又、台所の壁に感染予防のポスターを貼っている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	給食委員、感染委員が中心となり、マニュアル作成し、それに基づき行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に花を飾り、出迎えを行っている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせた装飾作りをしている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の団欒のスペースがある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	暦や時計はできるだけご家族へ持ってき てもらうように伝えている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大 きな差がないよう配慮し、利用者の状 況に応じてこまめに行っている	温湿計を設置している。掃除時の換気、 加湿のため、物干しに洗濯を干したり している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生 活が送れるように工夫している	バリアフリーで要所に手すりを設置し ている。転倒などないよう環境作り に努めている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混 乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している	入居当時などトイレやリビング、居 室など混乱しないよう声がけや張り 紙をしている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動で きるように活かしている	他ユニットへも自由に行き来し ている。外には花壇があり、野菜 や花を植え、収穫を味わっている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの提供に関する	
項目	取組の組み分け
職員	とく
利用者	とく
職員	とく
通いの	とく

項	HV	の	組	み	の
運営推					
職員					
職員か					
職員か					

↓特に力を入れている点・ア
 ・毎月1回の食事会又は外食
 を行っており、家族の参加も